

四万十川かわまちづくり計画（案）の概要

周辺地域の現状と課題

【位置・交通等】

- 高知市中心部から南西に約90km（車で約2時間）
- 最寄ICは四万十ICであり、四万十市の中心市街地まで約1km（車で約5分）
- 今後、四国8の字ネットワークの開通によって、四万十ICと高知ICや松山ICがつながり、県内外からの利便性が向上する見込

【地域の特徴等】

- 少子高齢化による加速度的な人口減少
- 観光客は主に四万十川沿いにある観光・レジャー施設を目的とし、目的地に直接訪れた後、次の観光地に向かう「通過型観光」が多い。

【観光資源等】

- 春から秋にかけて、河川空間を利用した様々なイベントを開催（菜の花まつり(3月)、納涼花火大会(8月)、リバーフェスティバル(10月)など）
- 観光遊覧船やカヌー体験等も運営されるなど、四万十川自体がイベント会場や観光地として、高知県内のみならず全国から多くの人を訪れている



【地域における課題】

- 四万十川沿川の施設利用者数は、全体的に年々減少傾向にあり、四万十市街地周辺の沿川施設の利用者数も少ない。
- 安全に川に触れ合い、泳いだりする場所が少なく、川（水面や水辺）そのものは利用されにくく活かされておらず、人と川との繋がりに距離感がある。
- 四万十川沿いの緑地（都市公園）は、利用開始から約40年を迎え、施設の老朽化や利用者ニーズの変化により改善が求められている。
- 市街地周辺の四万十川での楽しみ方は「見る」だけで、幡多地域では他市の観光施設も人気であることから通過型の観光が多くなっている。
- 地元や民間事業者による河川空間を活用した取り組みがほぼイベントのみとなっている。



菜の花まつり



カヌー

四万十川かわまちづくりの基本方針

◆四万十川かわまちづくり計画の基本方針（コンセプト）：

「川でつながるひと・まち・未来の創生」

◆四万十川かわまちづくり計画の基本方針の目標：

- ・安全・安心に川とふれあえる水辺空間の創出（幅広い世代の多くの人々が利用）
- ・地域や事業者などが河川空間を活用した更なる取組みの推進（地域や民間事業者などが利活用）
- ・まちと川の魅力の向上を図るとともに回遊性を高め、交流人口の拡大を図る（四万十川を訪れた人が利用）

【ハード施策の方針・メニュー】

- ①良好な環境を将来に向けて守り育てる
 - ・景観に配慮した管理用通路（園路）の整備、散策路の保全
- ②四万十川の魅力を活かした新たな場を創出する
 - ・親水護岸の整備(水辺の木陰を一部存置) ・樹林伐採、河原の掘削
 - ・水辺へのアクセス路の整備 ・キャンプ場への洗い場設置
 - ・入江への地下導水路等の整備 ・入江の底泥浚渫
 - ・入江周囲の樹林の伐採
- ③様々な水辺利用に資する利便施設の拡充
 - ・堤防裏、近隣公園への常設トイレの設置
 - ・案内板の整備（統一デザイン、外国語対応、夜間視認可能）
 - ・左右岸に駐車場を増設 ・ベンチ等の設置
 - ・カヌー等を水辺に降ろせるスロープの整備

【ソフト施策の方針・メニュー】

- ①良好な環境を将来に向けて守り育てる
 - ・四万十川の保全活動（環境保全、自然観察等）
- ②水辺の賑わいを創出する(四万十川らしいイベント等の企画・運営)
 - ・キッチンカー、マルシェ(バザー)、日曜市 ・スポーツイベント
 - ・河川アクティビティ（カヌー等）
- ③川やまちの魅力を繋ぐ仕組み（ネットワーク形成）
 - ・まちなかとの周遊の魅力化
 - ・ウォーキング・サイクリングコースの拡充と活用
- ④その他
 - ・アスレチックの一時的な整備
 - ・バスケットボールコート（既存テニスコートの一部を転用）
 - ・グランドゴルフコースの設置(緑地を利用)
 - ・バーベキューエリアの設置 ・既存の花畑(菜の花、彼岸花)の保全
 - ・四万十川利用への安全性の確保(水難防止対策)

【四万十川かわまちづくりによって期待できる効果】

- ・地域の集客力向上、滞在型観光の促進
- ・地域活力の向上

四万十川かわまちづくり計画方針図（案）

その他（具体的箇所は今後検討）

【ハード】

- ・案内板の整備(統一デザイン、外国語対応、夜間視認可能)
- ・ベンチ等の設置

【ソフト】

- ・四万十川の保全活動(環境保全、自然観察等)
- ・キッチンカー、マルシェ(バザー)、日曜市
- ・まちなかとの周遊の魅力化
- ・ウォーキング・サイクリングコースの拡充と活用
- ・グラウンドゴルフコースの整備
- ・四万十川利用への安全性の確保（水難防止対策）

礫河原
樹木伐採による水辺へのアクセシビリティ向上に伴う河川アクティビティやスポーツイベントの利用推進

テニスコート
テニスコートの整備済み

バスケットボールコート
バスケットボールコートの整備（テニスコートの一部を転用）

駐車場
利便性向上のための駐車場の増設

緑地広場
多目的な利用が可能な緑地広場

入田ヤナギ林
景観に配慮した管理用通路(園路)の整備、既存の散策路、花畑を保全イベント等の開催に併せたアスレチックの一時的な設置

キャンプ場
利便性向上のための常設トイレ・水洗い場の整備、バーベキューエリアの設置

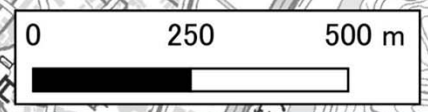
入江
親水護岸、スロープの整備および入江の環境保全による安全かつ容易に水遊びができ、河川アクティビティも可能な場の整備

サッカー場
サッカー場付近に常設トイレ・駐車場の整備

【凡例】

- ：進入動線(70-90°)
- ▶：進入動線(階段)
- ◆◆◆：水辺・河原へのアプローチ
- ：水陸の接続
- ：管理用通路(園路)

赤字の施設：整備予定
黒字の施設：整備済み



地図出典：地理院地図に一部加筆

ハード整備計画（案）

	No.	施策内容	かわまちづくりの「目標」への該当		
			目標①	目標②	目標③
ハード施策	①	景観に配慮した管理用通路（園路）の整備、散策路の保全	●	●	●
	②	堤防裏、近隣公園への常設トイレの設置		●	●
	③	案内板の整備（統一デザイン、外国語対応、夜間視認可能）			●
	④	左右岸に駐車場を増設		●	●
	⑤	ベンチ等の設置		●	●
	⑥	カヌー等を水辺に降ろせるスロープの整備	●	●	●
	⑦	水辺へのアクセス路の整備	●	●	●
	⑧	樹林伐採、河原の掘削	●	●	●
	⑨	親水護岸の整備（水辺の木陰を一部存置）	●	●	●
	⑩	入江への地下導水路の整備		●	●
	⑪	入江の底泥浚渫		●	●
	⑫	入江周囲の樹林の伐採		●	●
	⑬	キャンプ場への洗い場設置		●	●

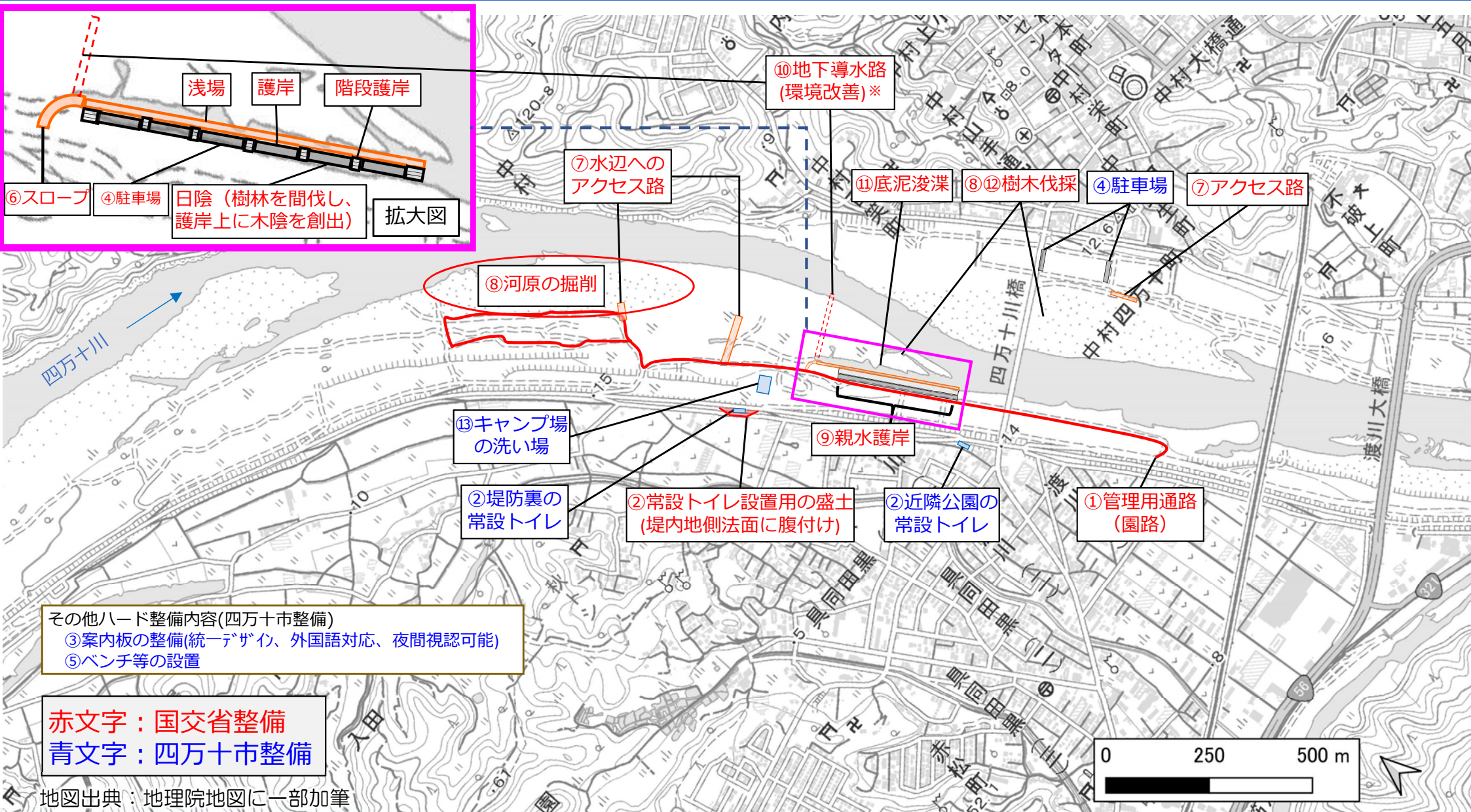
◆四万十川かわまちづくりの基本方針：「川でつながるひと・まち・未来の創生」

目標①安全・安心に川とふれあえる水辺空間の創出（幅広い世代の多くの人利用）

目標②地域や事業者などが河川空間を活用した更なる取組みの推進（地域や民間事業者などが利活用）

目標③まちと川の魅力の向上を図るとともに回遊性を高め、交流人口の拡大を図る（四万十川を訪れた人が利用）

ハード整備計画 (案)



※地下導水路は環境改善方法の1つであり、具体的な方法については今後の検討により変更する可能性がある。

整備工程

○下記の工程で水辺整備・施設整備をそれぞれ実施していく予定している。

- - - : 設計 — : 整備

種別	事業者	整備内容	R7	R8	R9	R10	R11
水辺整備	中村河川国道事務所	親水護岸	—	—	—	—	—
		管理用通路(園路)		—	—		
		樹木伐採	—	—	—	—	—
		堤防盛土等		—			
施設整備	四万十市	トイレ	—	—	—		
		洗い場		—			
		駐車場				—	
		案内板設置					—

※主な整備内容を抜粋

※現時点の想定であり、予算の状況等によって整備の順番等が変わる場合がある

ソフト施策計画（案）

	No.	施策内容	かわまちづくりの「目標」への 該当		
			目標①	目標②	目標③
ソフト施策	①	四万十川の保全活動(環境保全、自然観察等)		●	
	②	キッチンカー、マルシェ(バザー)、日曜市		●	●
	③	河川アクティビティ(カヌー等)		●	●
	④	スポーツイベント		●	●
	⑤	まちなかとの周遊の魅力化			●
	⑥	ウォーキング・サイクリングコースの拡充と活用			●
	⑦	アスレチックの一時的な設置		●	●
	⑧	バスケットボールコート of 整備(既存テニスコートの一部を転用)		●	
	⑨	グラウンドゴルフコースの整備		●	
	⑩	バーベキューエリアの設置		●	●
	⑪	既存の花畑(菜の花、彼岸花)の保全		●	●
	⑫	四万十川利用への安全性の確保(水難防止対策)	●		

◆四万十川かわまちづくりの基本方針：「川でつながるひと・まち・未来の創生」

目標①安全・安心に川とふれあえる水辺空間の創出（幅広い世代の多くの人利用）

目標②地域や事業者などが河川空間を活用した更なる取組みの推進（地域や民間事業者などが利活用）

目標③まちと川の魅力の向上を図るとともに回遊性を高め、交流人口の拡大を図る（四万十川を訪れた人が利用）

ソフト施策計画（案）

	No.	施策内容	施策概要
ソフト施策	①	四万十川の保全活動(環境保全、自然観察等)	・自然環境の保全・環境学習エリアの提供
	②	キッチンカー、マルシェ(バザー)、日曜日	・イベント的な飲食物販
	③	河川アクティビティ(カヌー等)	・コースの設定等
	④	スポーツイベント	・大会や体験イベント等の開催
	⑤	まちなかとの周遊の魅力化	・動線確保（整備） ・移動を楽しむための移動手段レンタル、シェアリング(自転車、グリーンスローモビリティ、電動キックボード等)
	⑥	ウォーキング・サイクリングコースの拡充と活用	・上下流端の整備による周遊コース等の設定 ・まちなかと繋がるコース設定

【施策のイメージ】



①四万十川の保全活動



②キッチンカー、マルシェ(バザー)、日曜日

出典：加古川市ホームページ



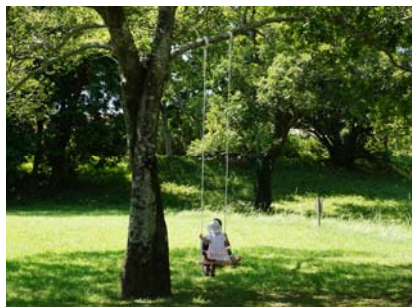
⑥ウォーキング・サイクリングコースの拡充と活用

出典：四万十市観光協会ホームページ

ソフト施策計画（案）

	No.	施策内容	施策概要
ソフト施策	⑦	アスレチックの一時的な設置	・小さな子供も遊べる小規模・シンプルかつ自然素材を基本とした遊具を設置
	⑧	バスケットボールコート of 整備(既存テニスコートの一部を転用)	・既存テニスコートの一部を転用し、バスケットボールコートを整備
	⑨	グラウンドゴルフコース of 整備	・緑地をグラウンドゴルフコースとして利用
	⑩	バーベキューエリア of 設置	・緑地へのバーベキューエリア of 設置
	⑪	既存の花畑(菜の花、彼岸花) of 保全	・現状みられるヤナギ林周辺の菜の花や彼岸花 of 保全・管理を行う
	⑫	四万十川利用への安全性 of 確保（水難防止対策）	・水難事故防止のために安全教室を開催する ・看板 of 設置

【施策 of イメージ】



⑦アスレチック of 設置



⑧バスケットボールコート



⑨グラウンドゴルフコース



⑩バーベキューエリア of 設置



四万十川河川敷 of 菜の花

⑪既存 of 花畑 of 保全



水難事故防止教室 of 開催（年1回）

⑫四万十川利用への安全性 of 確保

バスケットボールコート of 写真
出典：稲城市ホームページ

グラウンドゴルフコース of 写真
出典：国土交通省能代河川国道事務所
二ツ井出張所

バーベキューエリア of 写真
出典：彩 of 国埼玉県ホームページ

計画実行の役割分担 (案)

	施策内容	役割分担		
		国交省	四万十市	地元・民間事業者
ハード施策	景観に配慮した管理用通路（園路）の整備、散策路の保全	●		
	堤防裏、近隣公園への常設トイレの設置	●（基盤）	●（施設）	
	案内板の整備（統一デザイン、外国語対応、夜間視認可能）		●	
	左右岸に駐車場を増設	●	●	
	ベンチ等の設置		●	
	カヌー等を水辺に降ろせるスロープの整備	●		
	水辺へのアクセス路の整備	●		
	樹林伐採、河原の掘削	●		
	親水護岸の整備（水辺の木陰を一部存置）	●		
	入江への地下導水路の整備	●		
	入江の底泥浚渫	●		
	入江周囲の樹林の伐採	●		
キャンプ場への洗い場設置		●		
ソフト施策	四万十川の保全活動(環境保全、自然観察等)	●	●	●
	キッチンカー、マルシェ(バザー)、日曜日			●
	河川アクティビティ(カヌー等)			●
	スポーツイベント			●
	まちなかとの周遊の魅力化		●	
	ウォーキング・サイクリングコースの拡充と活用		●	
	アスレチックの一時的な設置		●	●
	バスケットボールコート of 整備(既存テニスコートの一部を転用)		●	
	グラウンドゴルフコースの整備		●	
	バーベキューエリアの設置		●	
	既存の花畑(菜の花、彼岸花)の保全			●
	四万十川利用への安全性の確保（水難防止対策）	●	●	●

定量的目標

○地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標として、四万十川かわまちづくり計画対象地域における**利用者数およびイベント回数が増加すること**を想定する。

指標項目	評価指標	目標値	計測方法
利用者数	かわまちづくり計画対象区域内の特定施設の利用者数	整備前後で利用者数が増加	届出が出された施設の利用者数について、年度ごとに利用者数を集計 ・整備前と整備後の増減を比較
	かわまちづくり計画対象区域内の利用者数	整備前後で利用者数が増加	河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）の調査方法に準じて利用者数を計測 ・整備前と整備後の増減を比較
イベント回数	かわまちづくり計画対象区域内で開催されるイベントの回数	整備前後でイベント回数が増加	届出が出されたイベントの年間開催数について、年度ごとに開催数を集計 ・整備前と整備後の増減を比較

計画推進に向けての今後の留意点

	留意点	今後の方針
ハード施策	【安全】 河川利用についての安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 水とのふれあいの場においては、安全に配慮した構造とするとともに、利用するためのルールを定め、周知する。
	【環境】 動植物の保全	<ul style="list-style-type: none"> 入江部の整備にあたっては、重要種等の生息・生育環境の保全に配慮する。 ヤナギ林周辺の整備にあたっては、マイヅルテンナンショウの保全に配慮する。 洗い場の整備にあたっては、誤って洗剤が使用されるリスクに備え、簡易な浄化対策の検討を行う。
	【景観】 管理用通路（園路）の規格等	<ul style="list-style-type: none"> 自然景観への調和について配慮するとともに、耐久性や補修等維持管理のしやすさにも配慮し検討する。
	【景観】 案内板等デザインの統一	<ul style="list-style-type: none"> 案内板（サイン）等の整備にあたっては、四万十川らしく、統一性のあるデザインとする。
	【維持管理】 施設の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 施設の維持管理の役割分担を具体化する。
ソフト施策	民間利用の推進	<ul style="list-style-type: none"> 四万十川の河川敷を利用しやすい施策のPRを進める。
	役割分担の調整	<ul style="list-style-type: none"> ソフト施策実施の役割分担を具体化する。

今後の推進体制について

- ・ 今後、施策の“担い手”を中心とした推進体制を構築し、計画を着実に推進していきます。

■ 計画検討時・推進時の体制イメージ

